

平成30年度施設見学会の開催



幸之助氏の歩みを



幸之助氏の実践経営哲学&成功哲学

電気設備関連施設などの見学や会員間の交流の促進を図ることを目的として、技術・安全委員会の企画による施設見学会が、11月21日（水）会員企業19社、総勢22名の参加により開催されました。

今回は、創業100周年を機に、これまでの「松下幸之助歴史館」に加えて、「ものづくりイズム館」などを新たに設置して平成30年3月にリニューアルされた、門真市のパナソニックミュージアムを訪れました。

まず、ミュージアムの担当者の方から施設の概要についての説明を受け、各自で施設見学を行うなかで、家電製品を核に新しい暮らし文化を創造し続けてこられた松下幸之助氏の事跡を振り返り、また、製造の歴史を辿れるように展示された多様な電気製品群に触れ、様々な教訓を得ることができました。

見学の後、施設の会議室で、パナソニックエコソリューションズ創研(株)の上席講師である尾崎高広氏から「創業者 松下幸之助から直に学んだ実践経営哲学&成功哲学」をテーマに講演をしていただきました。「企業は社会の公器」という経営理念を確立し、「事業を通じて社会に貢献する」ことを実践された松下幸之助氏の言葉や行動をわかりやすく紹介していただき、電気設備業界に携わる会員にとっては、改めて業界の社会的使命を認識するとともに、自らの「生き方・考え方」のヒントを見つける機会ともなりました。

講演中のエピソードの一つに、織田信長、豊臣秀吉、そして徳川家康の性格を表す際によく言われるホトトギスの句について、ご自身についてはどうかと問われた幸之助氏が、即座に、「鳴かぬならそれもまたよし ホトトギス」と答えられ、少し後に「またよし」を「なおよし」に改められたというお話がありました。

「鳴かぬなら それもなおよし ホトトギス」、幸之助氏のお人柄が偲ばれるように思います。



ものづくりイズム館



懐かしい製品の数々